

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月23日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	+C1 Chinese Language & Culture(N Taiwan)	派遣先大学:	台湾大学(NTU)
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

台湾の東大に当たる台湾大学は、キャンパスが大きく、南国風の自然に囲まれていて、過ごすのに快適な環境であった。キャンパス内のみならず、付近には夜市などもあり、台湾らしいご飯、もしくは色々な食事が楽しめる。夏季長期休暇中であつたため外国人が多かつたが、普段はほとんど外国人がいないらしく、その点も東大と似ているかもしれない。

参加した動機

一番の理由は、異国で短いとは言えない程度の期間滞在して、自分がどのように感じるのか知りたいということだった。将来的に外国など通常と違う場所に滞在して仕事する機会もあるだろう。だからこそそのようなときに自分がどう感じるのか少しでも理解できればいいと考えていた。同時に暫く日本を離れてゆったりとした時間を送ることで乱れていた自分の生活を見つめなおすとともに将来について考えたいと思った。これが当プログラムであつたのは期間的な制約が大きい。しかしながら今までの大学生活で中国文化や中国語にはずっと触れてきていたので、その一つの大きな通過点という意味合いもあつた。

①プログラムの参加手続き(手続きにあつたのアドバイスなど)

僕はプログラムの手続き全般を期限ぎりぎりでごなしていたので、早め早めにやるようにだけ心がけると良いでしょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあつたのアドバイスなど)

台湾一か月滞在にはビザが不要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

一か月に過ぎないので特に何もしていない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大が手配してくださつたもののみ加入了。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

夏休みであり、特に何もなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英会話は習慣的に練習していたのでそれ以外特に何もなかった。中国語に関しては時間を見つけて少しでもレベルを回復させようとした。ただ期末テスト後時間はあまりなかったのものでそれほどできなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特にないが、胃が強いのかのならば油ものに対処できるような薬等を持って行ってもいいかもしれない。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

中国語と台湾探索という二つがプログラムの主な内容であった。中国語の授業は教科書を使って、会話量を担保しつつほとんど東大で受けるような授業とそれほど変わらないものであった。台湾探索という授業では何度かのツアーのほか、台湾文化に関する授業と、台湾文化に関するビデオ作製グループワークがあった。中国人を主に日本以外の人と何かを作り上げるグループワークは楽しかったし、その楽しさは努力次第で何倍にも思うと思う。

②学習・研究面でのアドバイス

やはり積極性が大事だが、特にプログラム外の時間でどれほど目的を持って動けるのかというのは重要ではないか？プログラムはそれほど重いものではないが、台湾大学付近に寮を借りて生活できるのだからその機会を無駄にしないでほしい。中国語を使う機会もプログラム以外の場所でたくさんある。

③語学面での苦勞・アドバイス等

グループワークは中国人が多く、ともすると彼らは中国語で話し始める。中国語ができないと困るかもしれない。ただコミュニケーションの積極性次第で何とかなるだろう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮はすべてNTU側が手配してくれる。太子寮に滞在していたのだが、近くにコンビニが二つあるだけで20分ほど歩かねば多くの店はない。大学まで徒歩5分で、教室まで15分で行けるというのはとても便利だった。部屋自体も狭くはなく快適だった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

公館駅の方に行けば何でもある。大学内にも店は多い。台北は地下鉄が発達しているので他の駅にも簡単に遊びに行ける。お金に関しては銀行で換えればよい。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は日本と大して変わらない。心身の健康については野菜をしっかり食べることと油に対処することに気を付けた。油ものに関しては、毎日のようにヤクルトを飲んでお腹を整えていた。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費は予約が遅く往復4万、食費交通費娯楽費等で5万ほど。プログラムの参加費や寮費は20万ちょいで奨学金が12万円出たので実質10万ほど別途先に払った。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大の手配してくださった12万円の奨学金のみ頂いた。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は同プログラムの参加者と遊びに行ったほか、プログラム終了1か月後に大事な試験を控えていたのでその準備のために勉強していた。また少し遠出して台中に遊びに行ったりもした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
台湾大学のstudent adviserがいろいろ面倒を見てくれるので、しっかりとサポートされていると言えるかもしれないが、教員の質は極めて普通と言える。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
大学の設備は大きな図書館、ジム、食堂など何でもそろっているし、大学内と寮のロビーにはwifiが完備されている。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
日本の忙しい生活を離れてゆったりと好きな中国語に触れたり考え事をしていられたのはとても有意義な時間であった。どの留学でもそうかもしれないが、日本のしがらみを少し離れられる時間は大切な時間となるだろう。大きな成長はできなかったかもしれないし、世界観が変わるような大きな発見もできなかった。それでも上記の理由により行って良かったと思う。
②参加後の予定
切り替えて日本で頑張る。特に公務員試験が目の前に控えている。また台湾で語学に触れその他勉強の習慣を取り戻すことができたので、それを継続させている。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
しっかりと自分の目的を持ってこそ、留学は意義があると思います。その上でその目的もしくはそこでしかできないことを積極的に頑張ってください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にない。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。